

転倒・転落

(頭を打った)

転倒・転落 頭を打った

(高所からの転落や、激しくぶつけた時は特に注意。)

- 1 意識がない。
- 2 ぐったりしている。
- 3 けいれんを起こした。



119
救急車を呼ぶ!



事故防止

- 1 吐く(複数回)。
- 2 目や鼻から出血がある。
- 3 泣かない。
- 4 顔色が悪い。
- 5 ぼんやりして、ウトウトしている。

1つでも
「はい」
がある

- 1 すぐに泣き出し、泣き止んだあとは、元気がよい。
- 2 意識がしっかりしている。

1つも
「はい」
がない



一次・二次救急医療機関
を受診してください(2~5ページ)

時間とともに、具合が悪くなったら救急医療機関を受診

しばらく様子を見る。
(27ページ参照)

- はさみ、鉛筆、箸、棒など先のとがったものを持って転倒すると危険です。手の届かない安全な場所にしっかりしまっておきましょう。
- 階段へ上がりれないように、柵を設けておきましょう。
- ベランダや窓の近くに、踏み台になるようなものを置かないようにしましょう。
- 自転車に乗せるときは、ヘルメット等を着用させましょう。
- 自転車のスポークへの巻きこみによる転倒にも注意しましょう。
- 歩行器で玄関から転落する事故が起こっています。

頭を打ったとき

観察のポイント

○吐き気やおう吐の有無、瞳の大きさ、目や手足の動きに注意してください。
○頭を打った後にすぐに泣いたかどうか、ぽんやりしていなかったかどうかなどについて、よく観察しておくことが重要です。
○頭を強く打っても、頭の骨の骨折や意識障害、目や手足の動きの異常がなく、頭を打ってから2日程度様子を見て何も症状がなく、1ヶ月注意をしていても何もなければ安心してよいでしょう。

○ただし、頭の中に出血が起こると、頭を打った直後はなんともなくても、後から生命に危険が及ぶことがあるので注意が必要です。

救急医療機関を受診してください

○頭の痛みが強くなるとき。
○吐き気が繰り返して見られるとき、気持ちの悪さが続くとき。
○意識がないとき、ぽんやりして放っておくと眠ってしまうとき。
○物が二重に見えたり、物が見えなくなったりしたとき。
○手足が動きにくくなったり、しびれたり

するとき。

○けいれんが起きたとき。
○体温がどんどん高くなってきたとき。
○ことばが不明瞭になったとき。
○左右の瞳の大きさが違うとき。
○頭を打った前後のことをよく覚えていないとき。
○打ったところにへこみがあるとき。
○なんとなく普段と比べて様子が違うとき。

ワンポイントアドバイス

○頭を打った後、2日程度は普段と変わったところがないか、注意してよく観察しましょう。
○あらかじめ事故やけがを予防しましょう。

- ・階段は勝手にのぼりおりできないように柵などを取り付けましょう。
- ・高いところに、ものを置かないようにしましょう。
- ・ベビーベッドは転落しないように必ず柵を上げておきましょう。
- ・家具の角などにはクッションテープを貼りましょう。
- ・ベランダには踏み台になるものを置かないようにしましょう。

知って安心 Q&A

Q コブができる場合にはどのようにしたらよいですか？

A 20分ほど、タオルの上から氷のうなどで冷やして様子を見てください。

Q 頭の皮膚に出血が見られたら、どうしたらよいですか？

A 清潔なタオルやガーゼなどで出血している部分を上からしっかり圧迫して受診しましょう。

Q 頭を打った後に吐くのは、頭の中に異常があるからではないのですか？

A 子供は大人と違っておう吐しやすい特徴があります。頭を打った後に頭の中での徵

細な異常でも吐くことがよくあります。

1~2回吐いてもその後元気にすればあまり心配ありません。

Q 頭を打った後はいつまで様子を見ればよいのですか？

A 後から脳に何か起こるのではないかと心配するご家族が多いのですが、子供の場合、後から脳に重大なことが起きる可能性は大人と比べるとまれなことです。頭を打ってから2日程度様子を見て何も症状が出なければ安心してよいでしょう。



骨折の可能性

観察のポイント

○骨折は、かなり痛みが激しいものです。そつと曲げたり、少し動かしただけでも痛がります。また、内出血を起こすため、患部がはれてきます。



救急医療機関を受診してください

○痛がって泣くとき
○動かしたり、曲げたりできないとき。
○打ったりひねったりしたところがはれて、内出血を起こしたとき。
○冷や汗や顔面そう白、ぼんやりしているなどのショック症状が疑われるとき。
○手を軽く引っ張っただけなのに、動かさなくなつた。

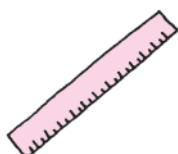
家庭でできる応急手当

○身のまわりのものを副木にして固定しましょう。

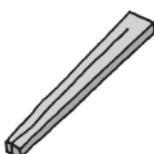
副木のあて方

指の場合	わりばしや、丸めた厚めの紙などを添木にして包帯で固定します。		足の場合	いちばん痛みの少ない形を保つように、副木をあて、包帯で固定します。	
腕の場合	 副木をあて、包帯で固定します。	 さらに三角巾で肩から吊り下げて固定します。			

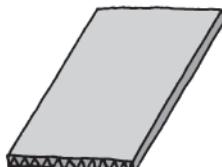
副木になるもの



ものさし



わりばし



ボール紙



雑誌